

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和5年 6月 6日

事業所名 チャレンジキッズどんぐり

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5			
	2	職員の配置数は適切である	4	1	・もう少し人数がいないと職員の負担が大きい。	・放課後等デイの職員も加えて全員で関わる体制を作る方向で考えています。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4	1	・施設自体が古く、寒さや雨漏り等については保護者に不便をかけている。	・建物は古いですが、整理整頓、丁寧な清掃を心掛ける。消毒は毎日行い、換気も継続して行います。寒さ・暑さ対策についてはご理解をいただき、支障がないように暖房器具・扇風機・加湿器等で対応します。・活動に合わせた空間は整っています。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	3	2	・時間が少なく取り組みが難しい。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	2	・毎年ホームページで公開しており、保護者にはアンケートの依頼時に、ホームページの閲覧を促している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	4		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	2	3	・コロナ関係で研修の機会が減る。又、現在の人数勤務体制では参加が難しい。	・すがた医院受講に積極的に参加。 ・今後は、オンライン等で幅広く研修を受ける予定。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5			
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	1		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	1		
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5			
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	1		
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5			
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5			
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4		未回答 1	・相談支援センター等の関係機関と情報を共有し、見直しの必要性を判断していく。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	2	・各担当が意見交換をし状況を共有している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	3	1	未回答1 ・特に保健師と情報共有をし、助言を頂いている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		2	未回答3 ・受け入れ体制がない。	・受け入れ体制がないため、今後も受け入れは困難と思われる。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		2	未回答3 ・受け入れ体制がない。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	2		・転出の際は、必要に応じて移転先の相談支援センターや保健師間で文章を提出するなどして共有している。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	1		・個別のケースで親の意向等がある時は、関係機関と連携を図り情報共有等の場を設けている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	2		・医療機関・保育所等訪問支援等の助言を受けている。又、月に1回発達リハビリテーション医院の訪問を受け受講。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	3		・事業所としては、年に1回は見学を実施しているが、子ども同士での交流の機会はない。又、子どものほとんどが、保育所・幼稚園等を利用している。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	3	・コロナ関係で今年度は開催されていない。	・今後は参加予定。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5			
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	1	4		・日頃の子育ての悩みや子供の上手な関わり方について、専門の方から助言を頂きながら保護者に伝えている。研修等を受けてスキルを学び、実践していくことで専門性の向上を図ります。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		5		・父母会はありません。今後も予定しておりません。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5			
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		5		・今後も計画予定はありません。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	1		・非常災害対応マニュアル、原子力災害対応マニュアルは作成済み。保護者への周知や想定した実施訓練は今後の課題。

非常時等の対応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5			・短い利用時間内で実施する事が難しく、職員と放課後等デイで実施している。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	1	3	未回答 1	・食事の場面はない。小集団のおやつ時では、確認を取ったが対象児童はなし。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	1	3	未回答 1	・全職員が研修を受ける、又は、受けた職員からの報告を通して虐待に関する正しい知識、理解を促していく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	1	・計画書の記載までには至ってな	・療育中、又は終了後に保護者に説明をし了承を得ているが、計画書への記載を行っていない。